

「14歳からの仕事道(みち)」

玄田有史

理論者 YA 新書 1260 円

著者は「仕事のなかの曖昧な不安」でサントリー学芸賞を受賞し、その後「ニート」などを著している玄田さんです

前書きに、14歳、中学二年生くらいをイメージして書いた(ルビ付)と述べていますが、読んでみると若者一般だけでなく、中高年齢者やキャリアを志す人に共通するテーマが沢山あることに気が付きました

著者はこうも言うております『この本には、「キャリア」というコトバはでてきません。でも、そんな疑問や不安にとことん向き合うための、本当のキャリア教育の本です』

私はいろいろな学者の中で玄田さんのキャリアに関して述べる独自の視点に共感と好感を感じながら書かれた本などを読まさせていただいています

ということでご迷惑とは思いますが、私が下手にまとめないでできるだけに省略せずに載せさせていただきました。括弧内の NO は私が便宜的につけたものです。もし疑問の点やご意見がある方は(NO)と指示すれば分かりやすいかと思い NO をふってみました。Cnet が今後ニートやフリーターに関心を持っていくと前提で、最後のほうはほとんどそのまま載せております。そのために長くなってしまいましたことをお許してください(特に川尻さん)

(1) 「やりたいこと」は出会うもの

- ・ やりたいことなんて、本人だけの力でなんとか見つけようとしても難しい。やりたいことは「出会う」ものなんだって
- ・ やりたことがないからといって決して不幸だということはない。むしろ、自分の本当にやりたいことって何だろうって、悩みながらあきらめずに探し続けている人のほうが、結局、自分が本当にやりたいことに最終的に出会えたりするんです

(2) 「やりがいのある仕事」と「向いている仕事」はちがう

- ・ 自分に向いている仕事に就かないと、やりがいが得られないなんてことは、絶対ないんです。むしろ自分に自分に向いているかどうかなんて、死ぬまで分からないのかもしれない。もっと言えば、向いているかどうかは、自分で判断するものではなくて、周りが決めてくれるものなんです

(3) 「安定」なんて簡単に求めるな

- ・ 安定を求めて公務員になると不幸になるよ、って言うんです。たくさんある職業のなかで、これからいちばん変わっていくもの、変わらなければやっていけないものは、間違いなく公務員です
- ・ とにかく不安定でもいいから、働きながら変化すること事態を楽しんでみたい、って心の底から思える人だけが公務員には向いているよって。激しい変化にさらされて、こんなことになるとは思わなかった・・・と後悔したりするようでは、公務員は苦

しいですよ。ならないほうがいいですよ

- ・ いろいろと先の見えない不安定から逃げずに、悩みながら歩きつづける人のほうが、いい仕事もできるし、幸運にもめぐり会える。それだけはまちがいありません。

(4) 悩んで、悩んで、悩みつくす

- ・ 人生の選択とか、就職とかで、相談をされることもたまにはありますけど、こっちがいいなんて、絶対に言いません。そんなことを言う権利なんて、家族にも、先生にも、誰にもないんです
- ・ だから、言うのは一つだけです。どうか悩みに悩んで、後悔がないように、しっかり今のうちに苦しんどいてくださいって
- ・ 人生の選択に答えなんかない。けど、答えなんかない、わからないからといって、最初から悩むことをあきらめるのは、できればしないでほしい。就職でも、恋愛でも、悩んで苦しむだけ苦しんだ人のほうが、どういう結果であれ、その姿は魅力的で美しいと思います

(5) 「どんな仕事をしてきたのか」を聞いてみる

- ・ 自分がリアルな目標をもつためには、直接誰かから話を聞いてみるのがいちばんいいんです

(6) 知らない誰かとのつながりから見えてくること

- ・ 働くことの本当の醍醐味は、そこで知らない誰かとつながることで、自分だけではわからなかった新しい発見があることなんです。その発見とは、自分の可能性だったり、自分の存在意義だったりする。そんな本当の自分なんて、自分ひとりで見つけようとしても、ほとんど無理なんです。仕事道とは、知らない誰かとの出会いやつながりを通して、今まで知らなかった自分を発見する道なんです

(7) 個性や専門性なんて簡単には身につかない

- ・ 個性や専門性などなくても、十分、充実した人生を送ることができる。ここでいう「充実」とは、特別にすぐれた才能を持った人間でなくても、自分なりにできることを精いっぱいやって生きることで得られる達成感のことです。個性や専門性なんかなくても、ちゃんと生きていけるんです
- ・ 「本当の個性や専門性なんて、そんなに簡単に見つかったり、得られるものでもは絶対ないんですよ」と言いたいのです。むしろ、個性や専門性なんて、何年も試行錯誤を繰り返しながら、やっとのことで身に付けるものなんです。一部の特別な運動動力を持つ人とか、アスリートとして恵まれた才能がある人とか、天才的な頭脳を持つ人を除けば、十代や二十代では、個性的であるとか、専門的であるなんて不可能なんです
- ・ 自分もまだ知らない本当の個性や専門性をいつか身につけたいと思いつけること、そのために行動し続けることだけです

(8) つまらない計算をしない

- ・ カベの前でウロウロしよう
- ・ カベなんて本当は乗り越えられないことのほうが多い。「カベにぶつかっても無理して乗り越えようなんてするな。乗り越えられるはずがない。そのかわり、カベの前でちゃんとウロウロしている」真剣にウロウロしていたら、ちゃんと誰かが見ていてくれて、助けてくれる。そのなかでいろいろ学んでいけばいい(吉本興業・横澤 彪)

(9) ポイントは「聴き上手」

- ・ コミュニケーションスキルとは、そんな「話し上手」のことをいっているわけではない。むしろ、本当に重要なこと、面接で見ていることは、その人が「話をちゃんと聞ける人か、聞こうとする人か」だということなんです。つまりは話し上手と言うよりは、むしろ「聞き上手」であるかの方が、ずっと大事なんです。もっと正確に言えば、ただぼんやりと「聞く」のではなく、全身を耳にして集中しながら「聴く」ことができる、つまりは「聴き上手」になることなんです

(10) とにかく「ありがとう」だけは言うておく

- ・ 「ありがとう」をよく言う人は、感謝や感動することが、いい意味で習慣になっている。だから特別なことに対して反応がいい。反応がいい人は、突然、目の前に現れるチャンスをつかみやすいんです
- ・ 特別な個性や専門的な能力がなくても、ちゃんと人の話を聞いて、あいさつの基本さえできていれば、生きていけるんです。必ずどこかでチャンスをくれます
- ・ 就職の面接でも、明るい性格のいい人って、やっぱり好かれるんです。一緒に働く仲間なんですから、それも突き詰めると、もって生まれての性格というよりも、人の話を聞こうとする姿勢が身につけていたり、自然で綺麗な挨拶ができている人、ということになんです

(11) 自分のボスは自分だ

- ・ 職場の上司からどんな評価を受けたとしても、つねに心の中で「自分の本当のボスは自分なんだ」という気持ちだけは持ってほしいと思うんです。誰になんて言われようと、どんな評価をされようと、自分自身の本当のボスは自分だけなんだ、ということだけは、忘れないでいてほしい

(12) やる気を生む。三つの方法

- ・ 一つは「一所懸命働いてくれれば給料は沢山払うよ」と約束すること
- ・ 二つめの方法は「一所懸命働いてくれれば、雇用は必ず守るよ、何があっても絶対にクビにはしないよ」と約束することです
- ・ 三つめのやり方は「今は給料や安定も大切だけれど、それ以上に自分らしく働きたい、それによってやりがいを感じられる仕事がしたいと思う人がどんどん増えている。だとすれば会社は、一人ひとりに自分らしく働くチャンスを今以上に拡大することによってやる気を持ってもらおうとするのです。ここに、一人ひとりの違いをこれから

は大切にしていこうという考え方が出てくるんです

(13) リストラの真実

- ・ 自分って何だったのか？1990年代から21世紀初めの時期、勉強して偏差値の高い大学に入って、それから大きな会社に入れば、その後は安心といったことが幻想であるということ、多くの日本人が気づかされました
- ・ 「これまでの会社勤めは自分にとって何だったのか」「自分は何のためにこれまで苦しい思いをして働いてきたのか」といったむなしい思いでいっぱいになったんです。自分とは一体何だったのかといった「アイデンティティ」の喪失感を強く味わうことになる。そんな状態が長く続くと、働く目的や意味を失ったままなので、再就職もなかなか決まらない
- ・ リストラで会社を辞めた後、再就職を希望しながら就職活動がうまくいかない人に、就職問題を専門にするカウンセラーは、決まってこんなアドバイスをします。「これまであなたがどんな仕事をしてきたのかを、四行から五行でいいから、自分言葉で書いてみてください」って、これがいざとなると書けないんです
- ・ 書いてほしいのは「どんな仕事でどのように働いてきたのかを、ささやかな誇りを持って他人に語れるような何かを自分は持ってきたのか、持とうとしてきたのか」ということです
- ・ 転職するときに必要なのは、専門性だとか、語学力だとかと思うかもしれませんが、それだけじゃない。むしろ転職をすれば必ず聞かれるのは、「あなたはこれまでどんな仕事をしてきたのか」ということです。それに対して相手を納得させたり、共感してもらえそうな話を正直にできない限り、再就職はできないんです
- ・ 個性がもっと重視される時代になると言われることがありますが、個性といってもそれは誰かが見つけてくれるものでもありません。生まれもつての個性もありますが、本当の自分の個性なんて、働きながら見つけようとするものです。自分の個性なんて、他人はわかってくれないし、自分でもわからないと思ったほうがいい。自分の知らない自分の個性を探し続けることや、個性そのものを自分の手でカタチにしていって、自分の言葉で表現していくプロセス（道すじ）こそが、働くということなんです。

(14) ウィークタイズ ~ うすく広くゆるやかな関係

- ・ ウィークタイズを持っている人ほど、転職に成功している。ストロングタイズ（強いつながり）しか持っていない人は、転職に成功しにくい
- ・ 友達が自分と同じような環境や価値観の中で生きている限り、今のあなたにとって、いや、これからのあなたにとって、その友達は、本当に必要な新しい情報は持っていない可能性が高い。そんなストロングタイズの友達だけとの付き合いからは、本当に自分に向いている仕事とか、どんな転職が自分にとって望ましいのかが、見えてこないんです
- ・ 20代のうちに、自分とは異なる状況に生きる、自分とは異質な人たちとのゆるやか

な信頼関係、つまりはウイークタイズを自分なりに持とうとしてほしいんです。それが、本当に自分がやりたいことを見つけるきっかけを与えてくれるんです

(15) 自分の弱さと向かい合おう

- ・ 仕事をすると、自分の弱さや無力さがいやおうもなく自分自身に突きつけられることです
- ・ あなたがまだ自覚していない、あなたのダメな部分はまだまだある。そして、同時に、あなたがまだ自覚していないあなたの才能もそこにあるんです。
- ・ 働くことの意味なんて、たったそれだけ、弱さの自覚ということだけです。

(16) 働くことは矛盾に満ち、だから美しい

- ・ 仕事道を歩んでいくには、真面目さだけでも気楽さだけでもなく、その両方を自分のなかに持って生きるようにすることです。仕事道に必要なのは「ちゃんといいかげんに生きる」ことです

(17) 学校をやめた人へ

○ チャンスは必ずある

- ・ とにかく働くことで、他人とつながっていてほしい。そうしているうちに、なにか偶然のようにチャンスはおとずれるものです
- ・ 正社員になった人のあいだでくらべれば、会社を辞める傾向がとりたてて中退経験者に高いわけではないのです。ただ残念ながら、世の中には高校を中退するような人は、そもそも一つのことが長続きしない人だという先入観があります。中退者には、そんな先入観や偏見が社会からなくなるよう、社会と闘って欲しいと思うんです

○ 自分で自分を守る

- ・ 中他者やフリーターは、自分で自分を守るということを、学校卒業者や正社員以上に、意識したり自覚したりしないとおけない
- ・ そして最後に一つだけアドバイスしておきたいことは、できるだけ自分で体を動かして、いろいろな人との出会いを作ってほしいということです。働くことの魅力とは、生活をするためのオカネを稼げることだけではありません。むしろそれよりも、いろいろな重いがけない人との出会いがある。そこに自分ひとりで孤独に考えていただけでは得られなかった、生きるヒントに偶然出会ったりする。だからこそ、働いてほしいんです
- ・ 学校を中退して友だちとも会わなくなった。働くこともしなくなった。そうになると、知らずしらずのうちに人との関係が閉じていく。お金をもらうために働くことが苦しければ、若者を支援しようとする NPO や、仕事をすることに悩んでいる若者を応援する「ジョブカフェ」といったところに足を運ぶだけでいい(本の巻末先をつけました)そこには、皆さんがたずねてくるのを待っていてくれる人が、きっといます

(18) おわりに

- ・ 学校では、勉強以上にイヤなこともあります。いじめにあつてきたり、周囲の心無い

言動などで、人知れず苦しんだりしながら、学校生活を送っている人もいるでしょう。でも、これだけは断言できます。つらい思いをしてきたり、いろいろなコンプレックスで苦しんできた人は、きっと言い仕事ができる、と。

- ・ いい仕事をすると、他人の痛みや悲しみがわかること、その苦しさをほんの少しでも和らげようとする事です。そしてできれば、人に小さな、喜びや希望を与えようとする事です。だから本当の痛みや悲しみの意味を知り、生きづらさと闘ってきた人のほうが、いい仕事のできる可能性は、絶対に大きいんです

(追加)

- ・ 長くなってしまいましたが、実際の本は中冊子というところです。一気に読めます
- ・ ところでみなさんはどのようにお感じになりましたか。何を読み取り、何に異論のようなものをお感じになりましたでしょうか
- ・ ニート問題に参考になるようなところはありませんでしたでしょうか
- ・ 手間味噌になりますが、私は「自分の固定観念とは違うところがあるな」と感じましたので、あえて転記を多くしました。
- ・ ちょっとキャリア開発の理論やスキルを学習したからといって、それに頼りすぎではいけないなとも反省しました
- ・ 22 日角館で若者集めての再就職支援、23 日苦竹の自衛隊で退官前の幹部へのセカンドライフのお話がまっていますので、今回のまとめを参考にして原稿を見直してみるつもりです

「ミリオンダラー・ベイビー」という映画をご覧になった方は「自分で自分を守る」というセリフ印象に残っていますね

是非ご覧になってください。いい映画ですよ